

タイ

東洋ミツバチと一緒に森をつくる

特定非営利活動法人 草の根国際協力研修プログラム(GONGOVA)



支援金額 2,500,000円
養蜂箱の製作 50箱

養蜂箱が完成し村人のもとへ。ミツバチの育つ環境が整ってきました。2018年からタイ西部の熱帯雨林を守るため活動の支援を開始し、「植えない植林」を進めてきました。少しずつ現地に根付きはじめたこの活動、昨年度は現地住民による養蜂組合ができ、持続的な活動に向けた基盤がつけられました。養蜂箱の製作や、蜜源となる植物の移植を進めており、ハチミツは村の代表的な地産品となりつつあります。※ミツバチに受粉をさせ間接的に植林と同じ効果を得ること。



ネパール

野口健 ヒマラヤに森をつくろう

特定非営利活動法人 ピーク・エイド



支援金額 5,764,616円
育苗 16,000本

持続可能な森林管理に向け、現地の自立が進んでいます。昨年度は、気温の急低下により、春先に育てていた苗が枯れてしまうトラブルからのスタートでした。屋根の設置や保温などの管理を改善したことにより、新たに育てはじめた苗は順調に育っています。また、サマ村の住民へのノウハウ伝授も順調に進んでおり、昨年つくったフェンスの中に15,000本の植林を実施しました。これまでに植林した合計30,000本の苗木は、現地スタッフだけでも順調に管理できています。植林の間合には、これまでイモ類しか育たなかったこの地に、山間部で不足している野菜の栽培も行いました。

キリバス共和国
南太平洋諸国支援
特定非営利活動法人 国際マングローブ生態系協会
マングローブを植林し、海岸浸食のリスク軽減をめざしています。現地に渡航出来ない日本人スタッフの代わりに、コロナ禍で仕事を失った若者へ雇用の機会を提供することにもつながりました。

支援金額 456,933円
マングローブの植林 6,080本

写真左より、大城のぞみさん、毛塚 みおさん、玉城 エリ子さん

フィリピン
異常気象に負けない森づくり
公益財団法人 オイスカ
森林の減少による土砂災害のリスクを軽減し、生物多様性を取り戻す活動を実施。また環境啓発用の教材をつくり、学校や、インドネシアやタイなどの近隣国に配りました。

支援金額 6,185,174円
植栽した苗の生存率 95%

写真左より、ペーニエ・マルセリノさん、レテシア・ボルブルさん、テリー・ボルブルさん、マリオ・ロベスさん

ツバル

南太平洋諸国支援

特定非営利活動法人 ツバルオーバービュー



支援金額 2,852,123円
植林マニュアル制作数 300冊

マングローブの植林マニュアルを制作。集大成の一年になりました。2004年に支援をはじめたツバルの活動は、2020年をもって無事に終了しました。今後は、これまで一緒に活動を続けてきた現地の皆さまに活動を引き継いでいきます。そこで、16年間の活動で得たノウハウを「植林マニュアル」としてまとめることに力を注ぎました。コロナ禍の影響により日本人スタッフの渡航がかなわず、現地政府への手渡しでの提出とエンディングイベントは開催できませんでしたが、マニュアルは首相のもとへ無事届けられ、ツバルに留まらず周辺国でも活用していただく予定です。

バブアニューギニア
熱帯雨林保全
公益財団法人 オイスカ
環境負荷がかかる農法からの脱却を進めながら、今後は米の販売にも力を入れていく予定。女性向けの縫製研修は年々参加者が増加。昨年度はマスクの制作も！

支援金額 3,979,520円
米生産高 2,729kg

菅原 美知勝さん

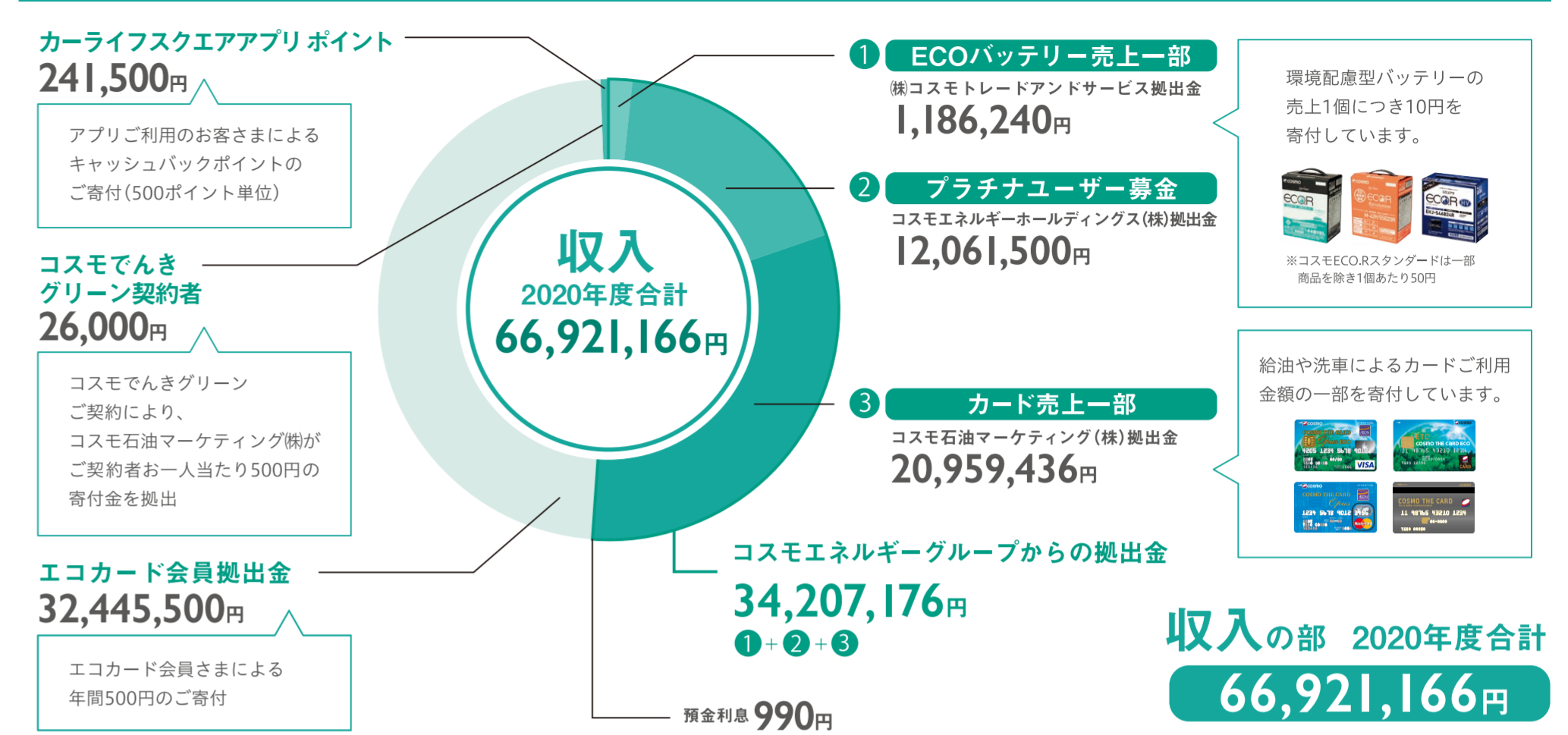
ソロモン諸島
熱帯雨林保全
特定非営利活動法人 バジフィックガーデン
職業訓練校で、小規模産業の育成を推進中。無農薬のカカオ豆栽培と商品化をめざした取り組みも進めています。

支援金額 7,920,000円
職業訓練校の卒業生 2020年度 138名

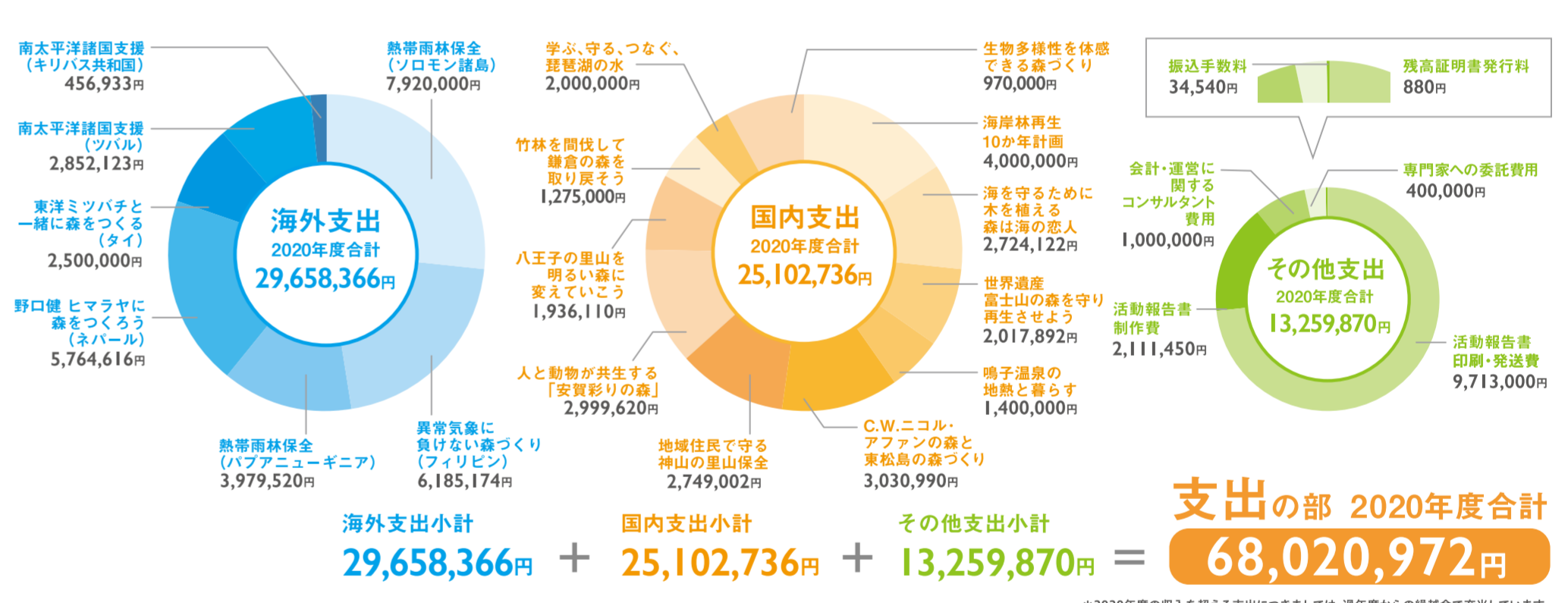
アンテナショップ「peace cacao沖繩」の皆さま

収支報告

収入の部



支出の部



理事長あいさつ

日頃より当基金を支えていただいている皆さま、この場をお借りしてお礼申し上げます。そして、新型コロナウイルス感染症は未だ終息する見通しが立っておらず、影響を受けられた方々やその関係者の方々へ、心よりお見舞い申し上げます。

さて、2020年度はこのコロナ禍の中、世界中で脱炭素社会に向けた様々な動きが加速した年でした。パリ協定の運用が始まりましたし、欧州では「A Clean Planet for All」ビジョンの具体的な戦略が打ち出され、日本でも「2050年カーボンニュートラル宣言」がなされました。我々コスモエネルギーグループも、2050年カーボンネットゼロ宣言を行いました。

コスモ石油エコカード基金 理事長 **植松 孝之**

評議員メッセージ

アメリカがパリ協定に復帰し、日本は2030年度の温室効果ガス削減を13年度比で46%と、従来より高い目標を掲げました。これは喜ばしいことではありますが、それだけ気候危機が深刻化しているとも言えます。そうした環境下で、エコカード基金の中長期ビジョンが策定されました。従来以上に気候危機に正面から取り組む決意表明とともに、地域循環社会づくりに貢献することが謳われています。ワンコインで誰もが参加できる基金のさらなる進化・成長に大いに期待しています。

コスモ石油エコカード基金評議員 サステナブル経営総合研究所 所長 **多田 博之**

世の中のこの大きな動きは、地球の抱える問題がより深刻な、危機的な状態になっていると多くの人が実感するに至っている表れではないでしょうか。その危機感を共有する当基金は、来年20周年を迎えるこの機に、より広く深く気候変動問題に向き合っていくべく、基金が目指す方向性として中長期ビジョンを作りました。ずっと暮らせる地球を残していくために、様々な垣根を取り払い「つなぐ、つなげる」ことを大事に、チャレンジを続けていく内容です。次の20年も皆さまとともに歩み、今より気候変動リスクが低くなっている社会を目指して、取り組んでまいりたいと思います。今後とも当基金をよろしく願っています。

